

校長室の窓から

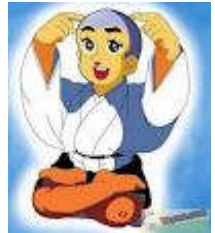
尼崎市立武庫東中学校 NO.17

平成24年1月12日
校長 小谷 豪 郎

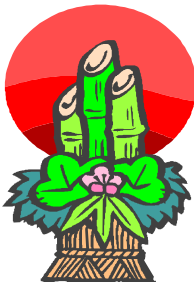
皆さん、改めまして、新年明けましておめでとうございます。

いつもより長かった冬休み、お正月はいかがでしたか。家族の中でもきちんと新年のあいさつができましたか。お年玉はもらいましたか。以前の調査では小中学生が正月にお年玉で10万円以上貯めていることもあったと聞きますが、バブル期以降は親御さんの財布の口も堅くなってきたのではないのでしょうか。

この休み中に本を読み、お正月に関係することをちょっと調べてみましたらこんなことが載っていました。皆もよく知っている一休さんのことです。室町時代の臨濟宗大徳寺の僧侶、一休宗純（イッキウソウジュン）が詠んだ和歌です。



『門松は 冥土の旅の一里塚 目出度くもあり 目出度くもなし』
という歌を詠んでいました。冥土・・・今はやりの秋葉原のメイド喫茶じゃありませんよ。死者の霊魂が行き着くところです。



本当はおめでたいはずのお正月に、なぜこんな和歌を詠んだのか、ということですよね。人間生まれてきては死んでいく、当たり前のことです。みんなが「死」ということを忘れていただけです。お正月を迎えるということは、1年歳を取り1歩死に近づくことになります。私たちは通常「死」ということを意識せずに生活しています。特に戦後の日本は、死を忘れた文化と言われています。ありがたいことに戦争もなく平和で、核家族が増え『死』を迎えるのは病院と云った時代です。ほんの20～30年前には祖父母、父母、子ども三代で暮らし、ほとんどが自分の家で親類縁者に看取られて死んでいくのが普通で、今以上に「死」が身近なものでした。

今回この「死」ということから逆に命の大切さを感じ取ってほしいなと思いこのお話をしています。年末から年始にかけて、報道番組や特番で東日本大震災を通じて命の大切さについて訴えかけるテレビ番組もたくさんありました。また、宗教の本によると、人間は、生まれたときに死ぬことが決められている。皆が忘れてしまっているだけで、「生まれてから何年たった、何月何日に迎えにくるから、ここで遊んでいなさい」といってこの世の中に放り出されたいらしいです。だから死んでいくことを「お迎えがきた」というのかもしれない。

人生は、お迎えが来るまでの暇つぶし、暇もありすぎるとしんどくなります。逆に何かに夢中になっていれば、暇を感じる間もなく有意義な人生を過ごせます。終業式にも言いましたが、3年生は、進路に向かって脇見もせず全力で取り組んでほしい。2年生は、3年生の後を継いで最高学年としてこの武庫東中学校を盛り上げてほしい。そして、1年生は、もうすぐ後輩が入って来ます。上級生として恥ずかしくない見本になってください。



皆さん、初詣は行きましたか。年の初め、けじめをつける良いチャンスです。本気で拜むのです。できるだけ強く己の心に染み渡るまで本気で念じるのです。自分自身の決意表明として、自分自身に思い込ませるのです。こうなりたい、ああなりたい、ではなく、「こうなる、ああなる」というように確信できるまで、毎日繰り返すのです。自分の中で当たり前になってくる、実現の可能性が高くなってくる、強い決意が自分の中の自分自身を変化させる、その変化が夢を叶えるエネルギーとなるんです。

〈2012. 1. 10 第3学期 始業式 式辞抜粋〉

明けましておめでとうございます



2012年、平成24年が幕を開けました。昨年は東日本大震災や台風による被害、円高によりいっそう不況に拍車がかかるなど、明るい話題よりも、深刻な出来事の方が多かった年ではなかったでしょうか。

今年は、オリンピックの年。様々な種目で日本選手が活躍し、被災地はもとより日本全国を勇気づけ、熱い気持ちにさせてくれることと信じて、希望を持って明るく元気に暮らしていきましょう。

【復興のシンボル長田の鉄人28号】

ビルの町にガオー ～♪

夜のハイウェイにガオー ～♪